

伊澤エイに関する研究(5)

奥野知加

はじめに

前回の「伊澤エイに関する研究(4)」では年代順に帰国後の作品を分析することによって各々の作品についてその運動内容を詳らかにすると共に「伊澤エイに関する研究(3)」で明らかになった帰国後の作品傾向と随時照合しながら考察をすすめてきた。これまでに9作品を対象に分析してきたが、それぞれ作品によって内容にばらつきはあるものの振動運動を中心にリズムカルな構成がなされている点は共通してみられる傾向であった。更に「親鳥子鳥」「波上の月」の2作品については模倣や感情表現を重視したかなり表現性の高い作品として創作されていることが判明した。このことは帰国後の新しい作品傾向として注目すべきことであろう。以上の事柄を踏まえ、本研究では引き続き年代順に作品を分析し、その運動内容と作品傾向をみてみたい。そして作品の解説文及び注意事項として特記されている文章などから創作者の意図する表現性について考察したいと思う。

方 法

1. 対象作品の選定

「伊澤エイに関する研究(1)」における作品一覧¹⁾に基づき、以下の5作品を対象とした。これらは前回より引きつづきの作品である。

「お月見」	昭和6年1月(32呼間)
「ウンテルデンリンデ」	昭和6年1月(128呼間)
「巴里人の生活」	昭和6年1月(216呼間)
「空行雁」	昭和6年1月(288呼間)
「蝶のゆくへ」	昭和6年1月(288呼間)*

カッコ内の数字は実動の呼間数であるが、*印の作品については2人又は3人組の作品であり、各々が別の動きを同時に行っている為、集計上の呼間数が解説上の呼間数よりも多くなっている。

2. 作品解説をもとに舞踊符と略図を作成する。

伊澤エイ著「体育ダンス」(昭和6年1月31日)における作品解説をもとに、作品の動きを略図化し、それに舞踊符と呼間数を同時進行させて、作品全体の流れと感じを把握する。略図

及び舞踊符、呼間数の取り扱いについては、田川典子・高橋繁美著「図説ダンスの基本運動」(昭和58年7月5日)の凡例²⁾に従う。(図1～図31参照)

3. 動きの分類

(1) 2で明らかになった各々の作品の動きについて、その主たる運動要素は何であるかを基本運動の観点から見極め、それぞれの運動別に分類する。基本運動の設定及び分類については、「図説ダンスの基本運動」に則る。ただし便宜上基本運動の内容を細分化し、記号を付け表1のようにした。以降、基本運動名はそれぞれの記号をもって表わす。(表1参照)

表1 基本運動分類表

I 緊張・解緊	(a) 緊張
	(b) 解緊
II 重心運動	(c) 山型・水平・舟底型移動
	(d) 歩(ウォーキング)
	(e) 走(ランニング)
	(f) 跳躍(ジャンプ)
	(g) 各種ステップ
	(h) 平均(バランス)
	(i) 倒
III 振動	(j) 振動(振る)
IV 弾性	(k) 弾性(弾む)
V 蛇動	(l) 蛇動(動揺)
VI その他	(m) ポーズ
	(n) 手拍子

(2) 分類された運動は、それぞれの作品の中でどのような展開を成しているかをみるために、その運動と呼間数を作品の流れに沿って帯状に図表化する。(表2～表6参照)

4. 基本運動使用頻度調査

(1) 作品別にみる使用頻度

1つの基本運動がその作品中に使用された頻度をみるために、それぞれの基本運動毎に実動呼間数をトータルし、各作品にみられる基本運動として表にする。(表7参照)

(2) 使用頻度グラフ

4-1の結果をもとに5作品全体の使用頻度をみるために、それぞれの基本運動実動呼間数を合計し、それをパーセンテージに換算したものをグラフ化する。(グラフ1参照)

図1 「お月見」 隊形二重円

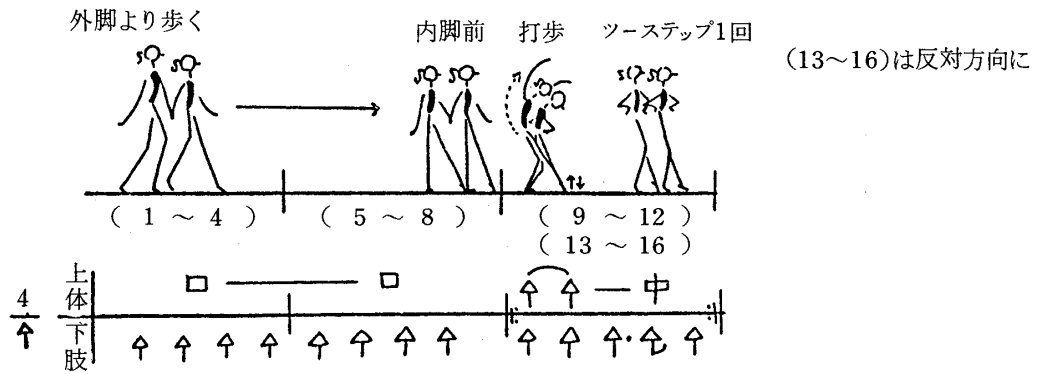


図2

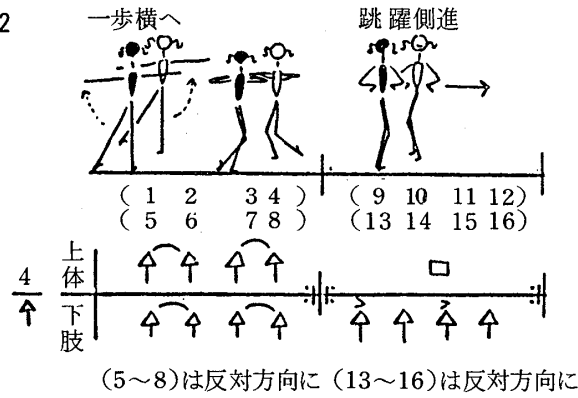


図3 「ウンテルデンリンデ」体操隊形

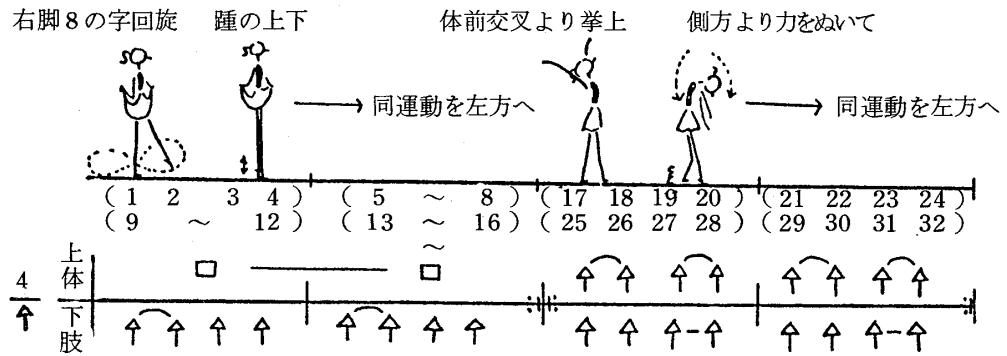


図4 上体をそらす

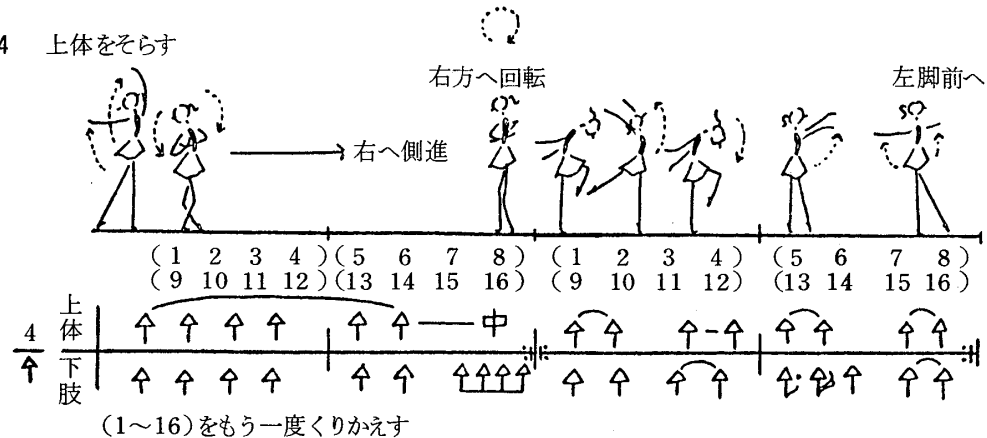


図5 ツーステップで 後退 右方へ 左方へ 一回転 腕の振動 右斜前方へすすむ 強く踏み出す ゆっくり後側

(1 2 3 4) (5 ~ 8) (17 18 19 20) (21 22 23 24)
 (9 10 11 12) (13 ~ 16)

4 ↑	上体	↑ ↑	↑ ↑	↑ ↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑ ↑
	下肢	↻ ↻	↻ ↻	↻ ↻ ↻ ↻	↻ ↻ ↻ ↻	↻ ↻ ↻ ↻

図6 前脚前腕内転 右脚をひいて 右脚を左斜前に 左脚をひき上げながら 両腕2回大きくまわして

(1 2 3 4) (5 ~ 8)
 (9 10 11 12) (13 ~ 16)

4 ↑	上体	↑	↑	↑	↑	↑ ↑ - 中
	下肢	↑	↑	↑	↑	↑ ↑ ↑ ↑

図7 「巴里人の生活」 体操隊形 掌を外にして挙上 右脚をみる 右へ回転

(1 ~ 3) (4 ~ 6) (7 ~ 9) (10 ~ 12)
 (13 ~ 15) (16 ~ 18) (19 ~ 21) (22 ~ 24)

3 ↑	上体	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑	↑ ↑ ↑
	下肢	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑

(1~12)を左方に行う

図8 手首をおって スコットランド 跳躍 左脚よりバランスステップ (1~3)と同じ 腕を下ろしながら 1/2回転

(1 ~ 3) (4 ~ 6) (7 ~ 9) (10 ~ 12)
 (13 ~ 15) (16 ~ 18) (19 ~ 21) (22 ~ 24)

3 ↑	上体	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑
	下肢	↻ ↻	↑ ↑ ↑	↻ ↻ ↑	↑ ↑ ↑

(13~24)は左方より行う

図9 左手前に挙げその場で
バランスステップ 右脚
右手を前に挙げその場で
バランスステップ 左脚
スコットランド跳躍

(1 ~ 3) (4 ~ 6) (13 ~ 15) (16 ~ 18)
(7 ~ 9) (10 ~ 12) (19 ~ 21) (22 ~ 24)

3	上体	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑
	下肢	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↻ ↻ ↑	↻ ↻ ↑

図10 右脚大きく踏み出す
踏みかえて
小走 → (7~9)と同じく

(1 ~ 3) (4 ~ 6) (7 ~ 9) (10 ~ 12)
(13 ~ 15) (16 ~ 18) (19 ~ 21) (22 ~ 24)

3	上体	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	中	中
	下肢	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	↻ ↻ ↑ ↑	↻ ↻ ↑ ↑

(13~24)のくり返しは後退しながら行う
図8よりここまでをもう一度くり返す(72呼間)

図11 右足滑歩 左足滑歩 ホップ 右脚ホップ 左脚 右脚
右脚より交換歩 後ろへ

(1 ~ 3) (4 ~ 6) (13 ~ 15) (16 ~ 18)
(7 ~ 9) (10 ~ 12)

3	上体	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑	中	中
	下肢	↑ ↑ ↑	↻ ↻ ↻ ↻ ↻	↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑

図12 下跳躍 右回転 左回転 右脚を後ろへ
ゆっくり両腕頭上へ

(19 20 21) (22 ~ 24)

3	上体	中	↑ ↑ ↑
	下肢	↑ ↑ ↑ ↑	中

(1~24)までをもう一度行う

図13 「空行雁」 体操隊形

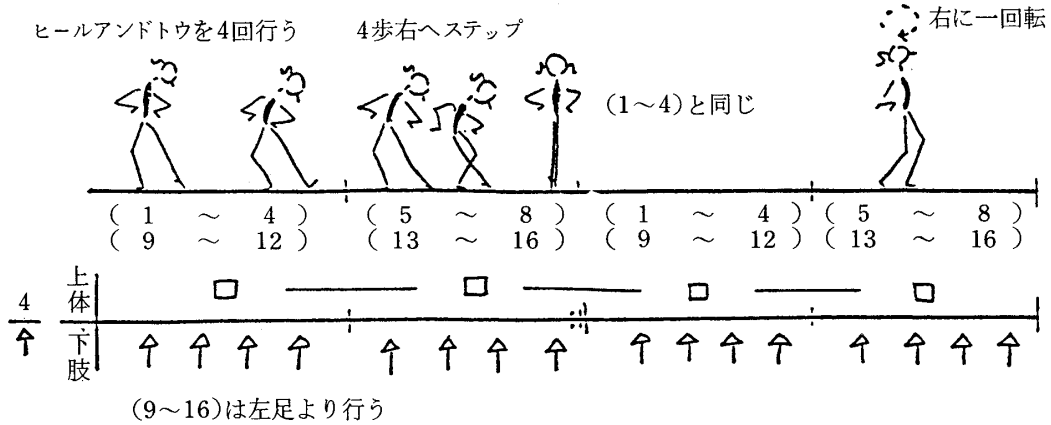


図14

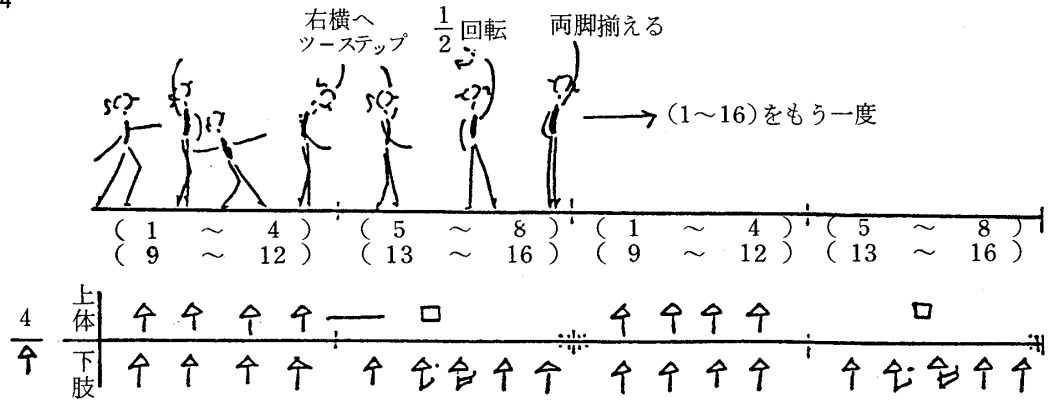


図15

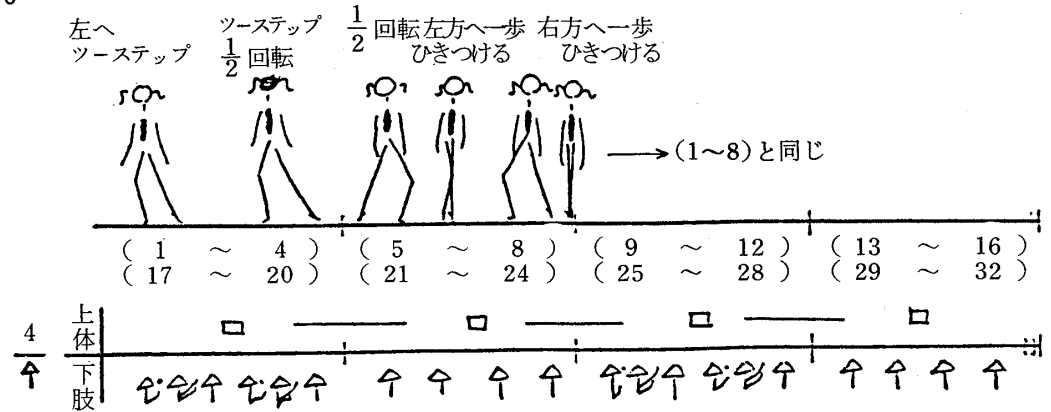
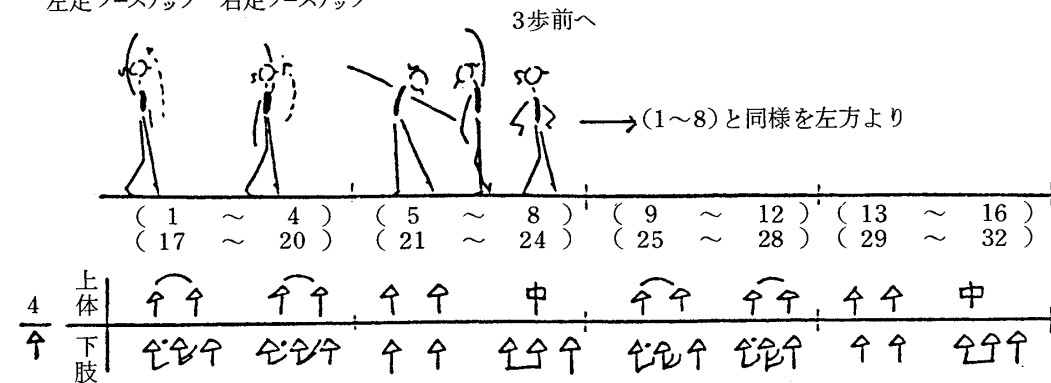
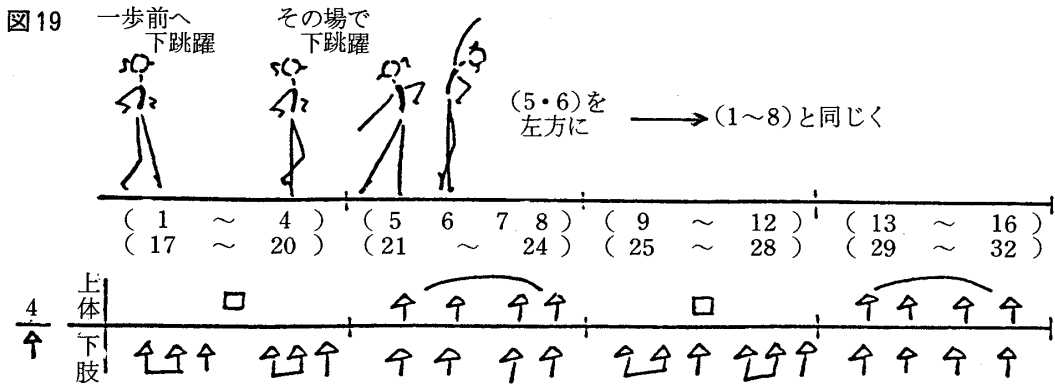
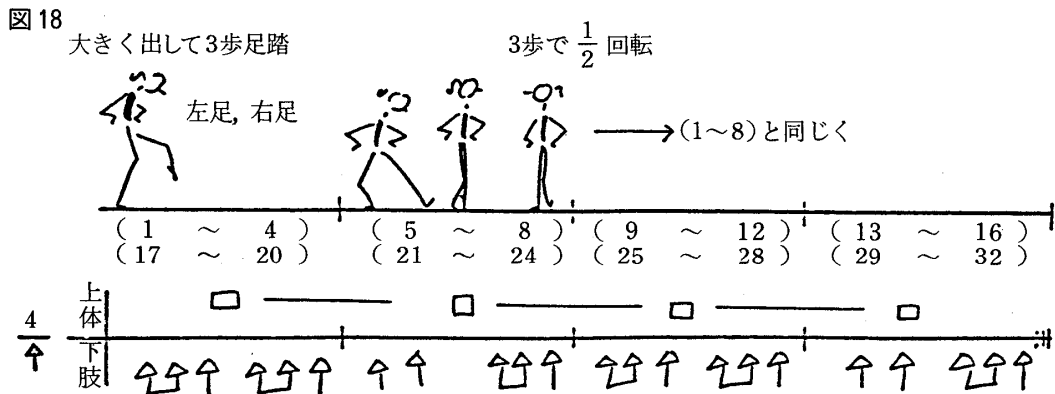
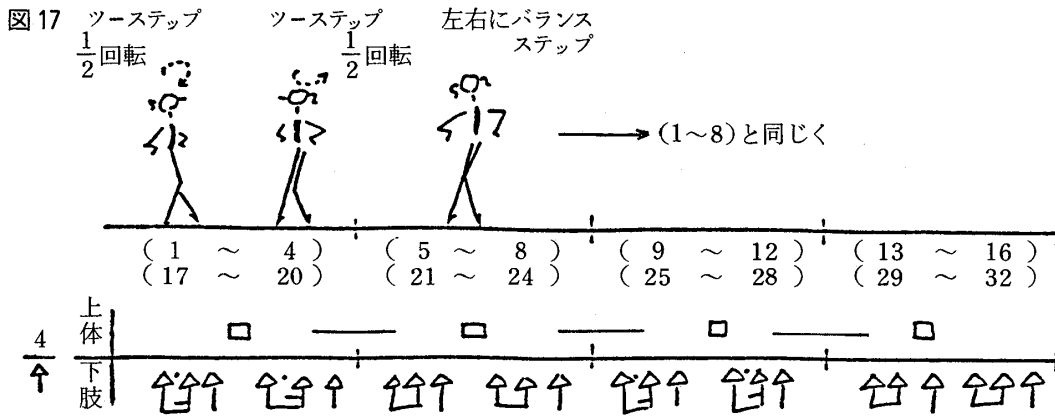


図16 左足 ツーステップ 右足 ツーステップ





次に図17の動きを行う(1~32)呼間

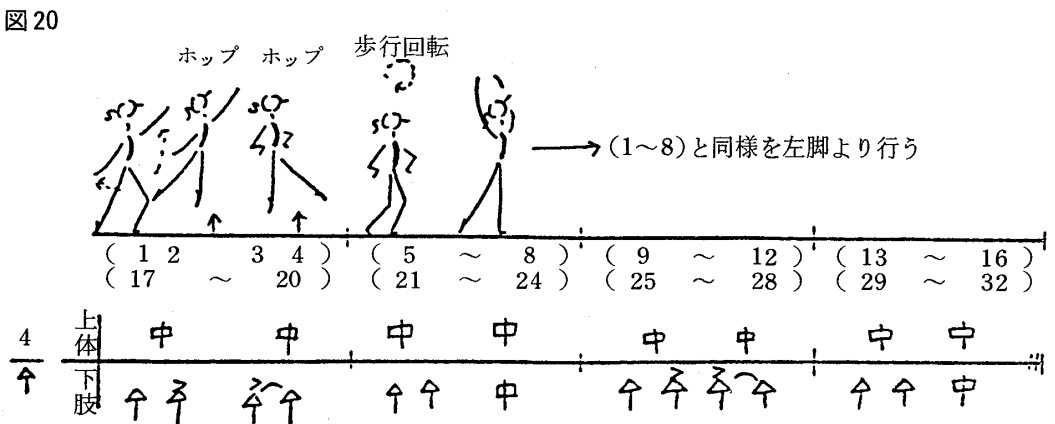


図21 「蝶のゆくへ」 6人グループで各自右手に団扇をもつ

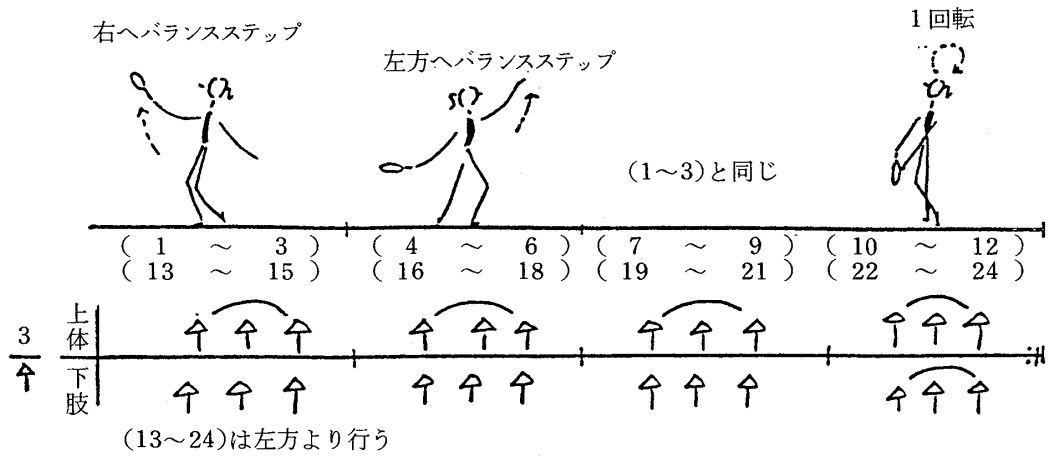


図22

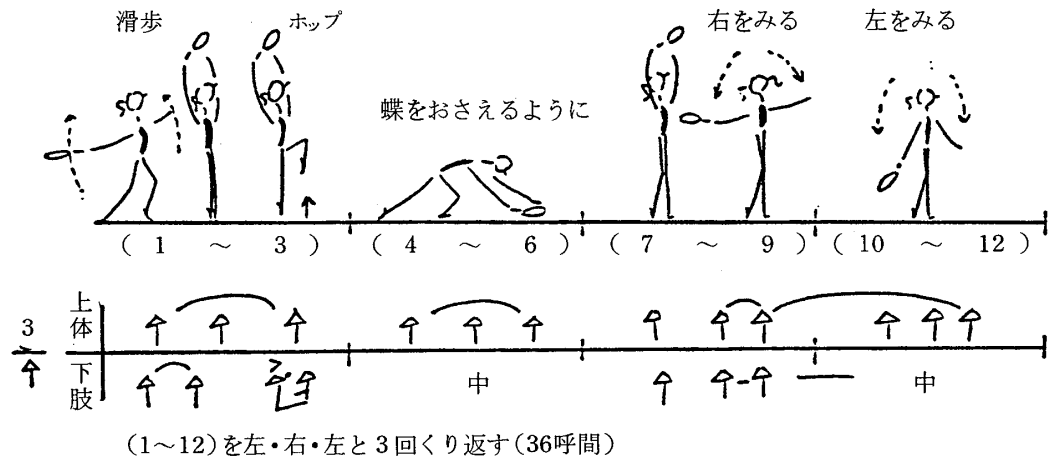


図23

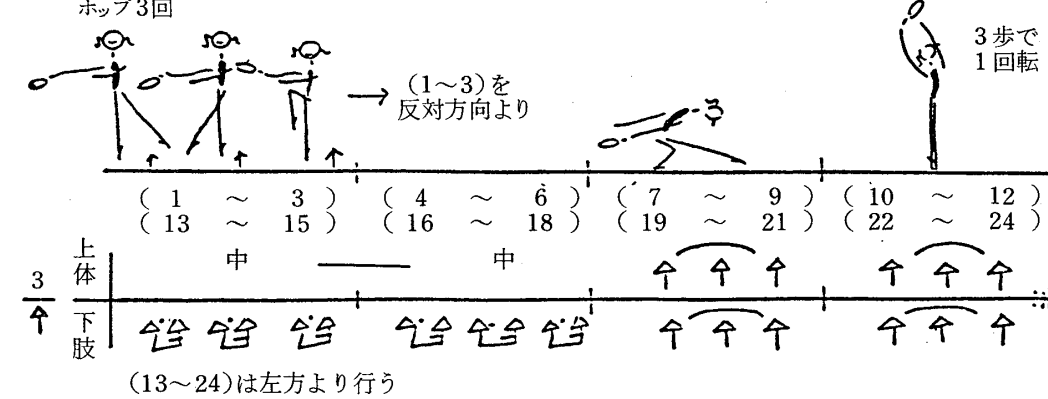


図24 6人円形になる

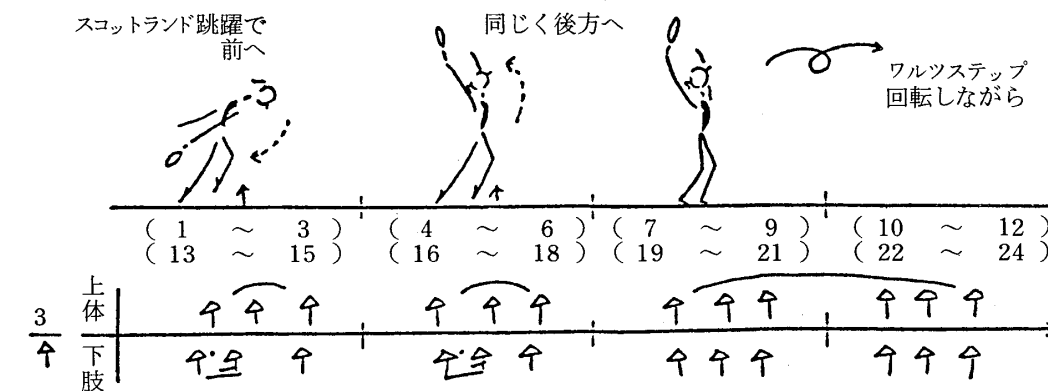


図25

スコットランド跳躍 一回屈伸 下跳躍 ホップ

(7~9)を左方より

(1 ~ 3)	(4 ~ 6)	(7 ~ 9)	(10 ~ 12)
(13 ~ 15)	(16 ~ 18)	(19 ~ 21)	(22 ~ 24)

3 上体 | ↑ ↑ ↑ 中 ↑ — 中 — 中
↑ 下肢 | ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

(13~24)左方へ

図26

右脚横へ 前へ 後へ

メヌエット (1~3)と同様を左脚より メヌエットで方向かえる

(1 ~ 3)	(4 ~ 6)	(7 ~ 9)	(10 ~ 12)
(13 ~ 15)	(16 ~ 18)	(19 ~ 21)	(22 ~ 24)

3 上体 | 中 — 中 — 中 — 中
↑ 下肢 | ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

図27

スコットランド跳躍 $\frac{1}{2}$ 回転

(1~6)と同じく

(1 ~ 3)	(4 ~ 6)	(7 ~ 9)	(10 ~ 12)
(13 ~ 15)	(16 ~ 18)	(19 ~ 21)	(22 ~ 24)

3 上体 | ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
↑ 下肢 | ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

図28

最初の隊形にもどる

外生は外側の手に団扇をもつ 中央生は右手にもつ

バランスステップ 回転

(1 ~ 12)

3 上体 | ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
↑ 下肢 | ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

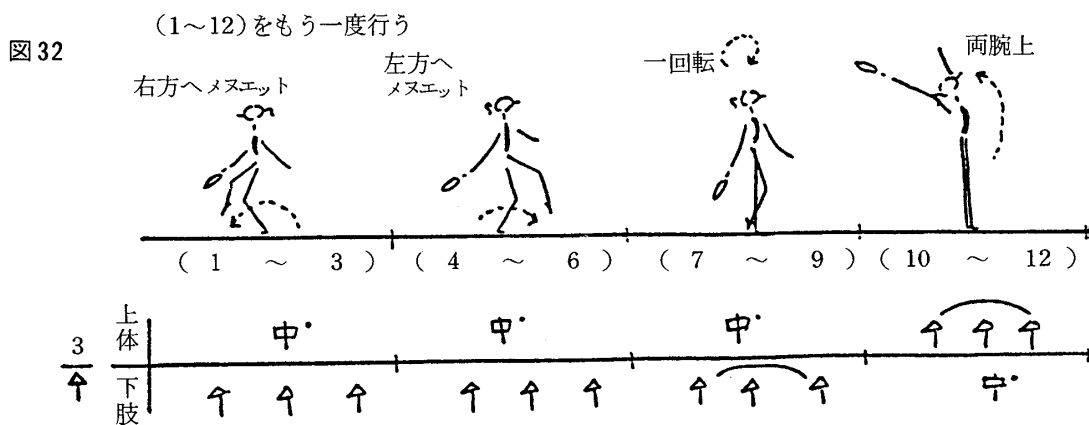
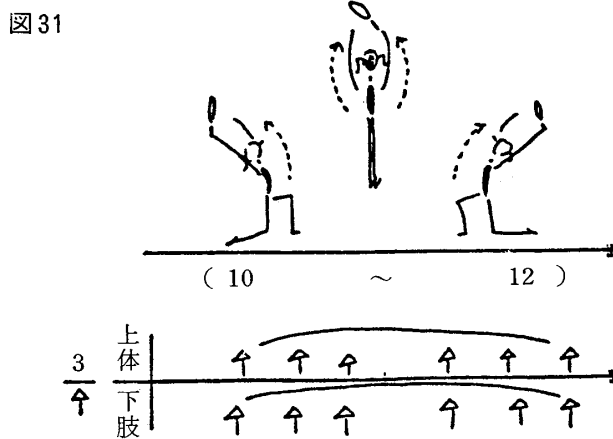
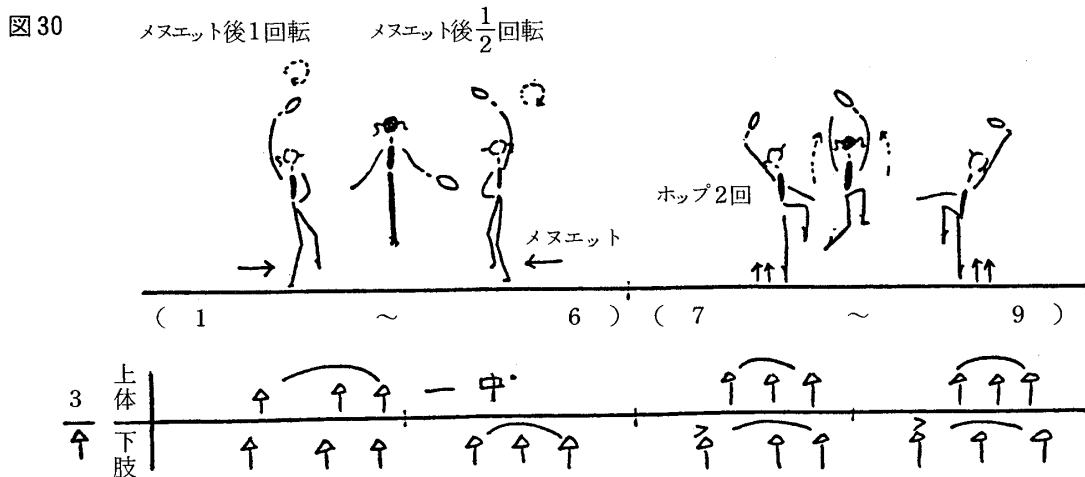
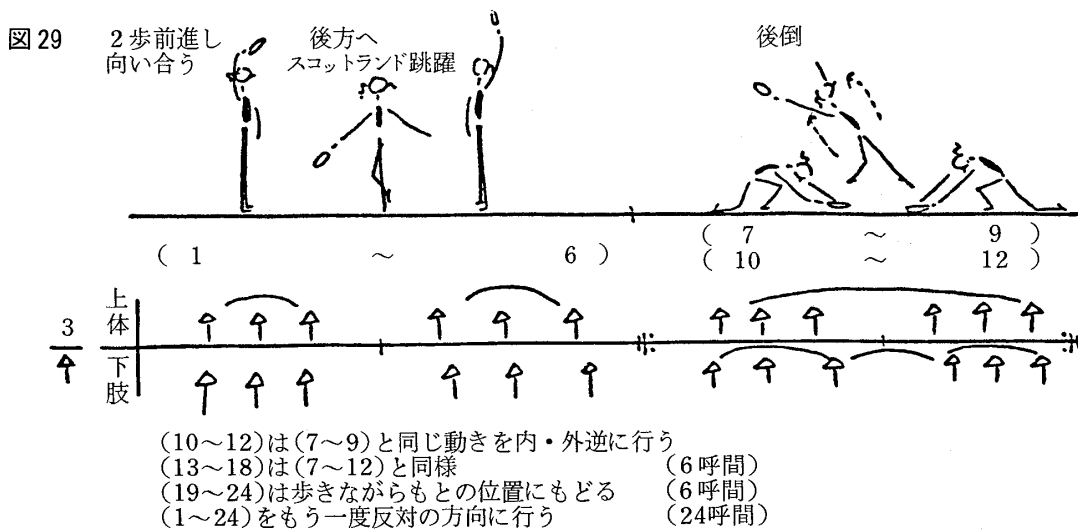


表2 お月見 (32呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)
d		j g		j g		b m		b m		f						

表3 ウンテルアンリンデ (128呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)							
j	k	j	k	j	k	j	k	a	b	a	b	a	b	a	b	j	d	j	d	j	d	j	d
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)							
j		g j		j g		j j		e		j e		j i		j j		j i		j j					

表4 巴里人の生活 (216呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)																	
l								f		g		f		g		f		g		g		f		g									
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)																	
g		f		e		i		g		e		i		g		f		g		f		g		f		g		g		f			
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192(呼間)																	
f		g		f		e		i		g		e		i		g		g		f		g		f		g		f		i		g	
192	196	200	204	208	212	216(呼間)																											
g		f		g		f		g		f		i																					

表5 空行雁 (288呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)		
g	g	g	g	g	d	g	d	c	g	c	g	c	g	c	g			
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)		
g								g										
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192(呼間)		
g								g										
192	196	200	204	208	212	216	220	224	228	232	236	240	244	248	252	256(呼間)		
f	g	f	g	f	g	f	g	g										
256	260	264	268	272	276	280	284	288(呼間)										
f	d	f	d	f	d	f	d											

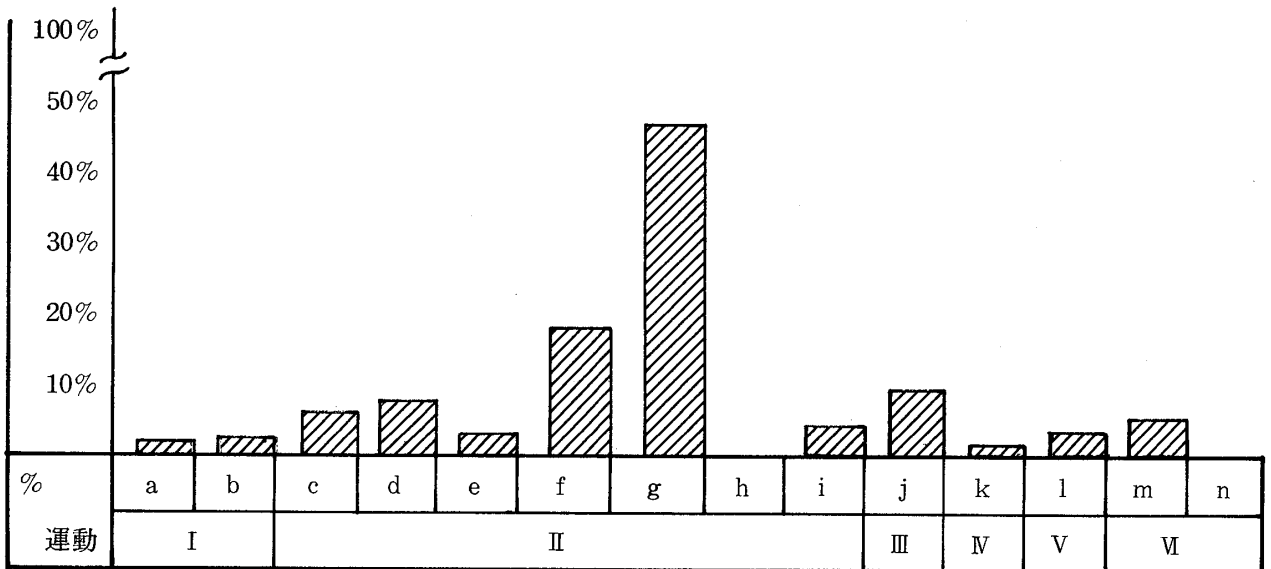
表6 蝶のゆくへ (288呼間)

0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64(呼間)		
g								g	m	m	g	m	g	m	g			
64	68	72	76	80	84	88	92	96	100	104	108	112	116	120	124	128(呼間)		
m	f	m	d	f	m	d	f	g	f	g	f	c	f					
128	132	136	140	144	148	152	156	160	164	168	172	176	180	184	188	192(呼間)		
f	f	c	f	g				f	g	f	g	f	g	f	g			
192	196	200	204	208	212	216	220	224	228	232	236	240	244	248	252	256(呼間)		
g			f	c	c	d	f	c	c	d	g							
			d					d										
256	260	264	268	272	276	280	284	288(呼間)										
g	f	c	g	f	c	g	g	m										

表7 各作品にみられる基本運動

	I		II							III	IV	V	VI	
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n
お月見 (32)		4 (12.5)		8 (25.0)		8 (25.0)	4 (12.5)			4 (12.5)			4 (12.5)	
ウンテル リンデ (128)	8 (6.3)	8 (6.3)		8 (6.3)	8 (6.3)		4 (2.9)		8 (6.3)	76 (59.3)	8 (6.3)			
巴里人の 生活 (216)					12 (5.6)	66 (30.6)	96 (44.4)		18 (8.3)			24 (11.1)		
空行雁 (288)			16 (5.6)	24 (8.3)		32 (11.1)	216 (75.0)							
蝶の ゆくへ (288)			36 (12.6)	24 (8.8)		66 (22.9)	117 (40.6)						45 (15.6)	

	I		II							III	IV	V	VI	
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n
合計 (952)	8 (0.8)	12 (1.3)	52 (5.5)	64 (6.7)	20 (2.1)	172 (18.1)	437 (45.9)	0 (0)	26 (2.7)	80 (8.4)	8 (0.8)	24 (2.5)	49 (5.2)	0 (0)



グラフ 1

結果と考察

「お月見」— 図1～図2, 表2, 表7参照 —

この作品は全体が32呼間という非常に短い作品である。運動内容としては、解緊4呼間、ウォーキング8呼間、跳躍8呼間、ステップ(ツーステップ)4呼間、振動運動4呼間、ポーズ4呼間である。作品の冒頭に8呼間ウォーキングが用いられ、最後に8呼間跳躍が用いられている外は、2呼間ずつ各運動がリズムカルに繰り返されている。フォークダンス的な要素の強い作品の構成となっている。そして、常に2人が組みになり、同じ動作をてきぱきと軽快に動かなければならず、ペアの呼吸、リズム感などは踊りこなしには重要なポイントであろう。表現性については、お月見というかなり具体的なタイトルであるにもかかわらず、運動内容にそれを意図した動きは見られず、解説文の中にも表現的な事柄は読みとれない。

「ウンテルデンリンデ」— 図3～図6, 表3, 表7参照 —

表7で明らかのように、振動運動が76呼間も使用され全体の60%近くを占めている。その外、緊張、解緊、ウォーキング、ランニング、倒、弾性がいずれも8呼間ずつ使用され、各種ステップの内、ツーステップが4呼間使用されている。ここで行われている振動運動は腕及び上体が主で、脚の振動は冒頭の8の字回旋のみである。ゆえに、常に体幹から十分に身体を動かさなければならず、かなりの運動量が要求されるものと思われる。またこの作品はスカートをはいて行われるもので、上体の振動運動と、それによるスカートの揺れが、自然で美しい線を描き、女性らしい雰囲気を出している。

「巴里人の生活」— 図7～図12, 表4, 表7参照 —

表7からわかるように、この作品の運動内容は、各種ステップが96呼間、全体の40%以上を占めている。そのほか、跳躍が30%、蛇動が11.1%、倒8.3%、ランニング5.6%となっている。全体的な感じとしては、ゆったりとした3拍子の優雅な作品である。冒頭の4小節にみられるような、非常に情緒的な味わいのある身のこなしが、随所にみられ、タイトルとの関連性もこのあたりに感じられる。略図からわかるように下肢の動きがかなり複雑になっており、蛇動を中心とした流れるような上体の動きとうまく調和させなければならず、踊りこなしには緩急自在に動く身体と高度なテクニックが要求されるものと思われる。また注意事項として次のような事が特記されていた。「運動会の教材として右手に花束を持たしむるのも賑かになってよいと思ひます。但し其の場合はなるべく臂の動きを静かにする方がいゝと思ひます³⁾」これはこの作品を運動会の教材として応用させる場合の注意事項である。つまり本来この作品は運動会用ではなく、表現を主体としたダンス作品として創作されたものであるということが、このことより確かめられたと言えよう。

「空行雁」— 図13～図20, 表5, 表7参照 —

この作品の運動内容は各種ステップが216呼間、全体の75%を占めている。その他、跳躍32呼間(11.1%)、ウォーキング24呼間(8.3%)、重心移動16呼間(5.6%)という内容である。略図及び分類表からわかるように下肢の動きが中心になっている。上体は両手腰にしたままの動きが大半で、時々空を見上げるようなポーズ(図16参照)が見られるが、一時的である。

下肢の動きとしては、ツーステップ、バランスステップ、ホップ、回転、跳躍とかなり多岐にわたって行われており、言うまでもなく下肢の巧緻性は必須条件である。全体的には速いリズムの軽快で楽しい感じの作品である。前述の空を見上げるようなポーズ（片手頭上に挙げ片手体前下に下ろし見上げるようなポーズ）はタイトルの空行雁を彷彿とさせる象徴的なポーズとして印象深い。

「蝶のゆくへ」— 図21～図32, 表6, 表7参照 —

この作品の運動内容は各種ステップ117呼間(40.6%), 跳躍66呼間(22.9%), ポーズ45呼間(15.6%), 重心移動36呼間(12.6%), ウォーキング24呼間(8.3%)である。この作品は各自小さい団扇を持って踊り、6人グループで隊形をつくる構成になっている。略図からもわかるように団扇を持って蝶をつかまえに行くという動作がよく見られ、解説文の中にも「両手を重ねて前下床上に下し蝶をおさへる表情⁴⁾」, 「蝶の逃げ去りし斜上を見る⁵⁾」と具体的に記されている。ゆるやかな3拍子のリズムの中で右に左に蝶を追いかけたり, そと蝶に近づいたり, 逃した蝶をうらめしく見上げたり, かなり模倣的な動きの多い感情表現を重視した作品である。作品解説に加え次のような事柄が特記されている。「一、此のダンスに使用する団扇はなるべく柄が長くて紙面の小なる、子供用の団扇を使用すること。二、団扇は親指、人差指、中高指、の三指にて軽く持ちあとの二指を軽くつけて指、手首、等に力を入れぬやう注意すること。三、始終団扇の面の向きに注意すること。四、序曲の列の編成を変へる時は動作をなるべく早くし団扇をヒラヒラ動かせぬやう注意すること。五、運動をゆるやかに且つ大きくすることに注意すること⁶⁾。」以上手具の取扱い及び隊形変化の要領, そして全体的な動きの要点について触れている。

ま と め

今回対象とした作品の内「お月見」, 「ウンテルデンリンデ」の2作品については、運動内容の観点から先の帰国後の作品傾向(振動運動を中心としたリズムカルな構成)に適合するものと言えよう。しかしその他の作品「巴里人の生活」, 「空行雁」, 「蝶のゆくへ」については、振動運動は極めて少なく、跳躍や各種ステップを中心に、全体が構成されている。また運動の内容にもかなりの偏りがみられ、運動形態的には帰国後の作品傾向に合致するとは言えない。しかし表現性の観点からみると、いずれもその内容に応じて表わしたい感情や感覚を動きに置きかえ表情豊かに踊らせている。このことは、冒頭で述べた新しい傾向として見逃せぬことであり、今後研究を続けることによって確かめて行きたいと思う。

注

- 1) 山田敦子・田川典子「伊澤エイに関する研究(1)」 東京女子体育大学紀要第16号. 索引.
- 2) 田川典子・高橋繁美「図説ダンスの基本運動」 昭和58年7月 新思潮社. p.9.
- 3) 伊澤エイ著「體育ダンス」 昭和6年1月. p.51 10行.
- 4) 伊澤エイ著「體育ダンス」 昭和6年1月. p.60 13行.

- 5) 伊澤エイ著「體育ダンス」 昭和6年1月. p.61 3行.
- 6) 伊澤エイ著「體育ダンス」 昭和6年1月. p.64 8行~13行.

参 考 文 献

- 伊澤エイ「體育ダンス」 昭和6年1月 目黒書店
- 田川典子・高橋繁美「図説ダンスの基本運動」 昭和58年7月 新思潮社

A Study of Ei Izawa
(Part 5)

Chika Okuno

As a follow up of the previous research " A Study of Ei Izawa (Part 4) ", the purposes of this study were to analyze her works chronologically, and to examine the trends of and the contents of movement in her works. Moreover, this study attempted to grasp the intended expressions in her works on the basis of the commentaries and special notes. The same method as in the previous study was employed in analyzing the following five works in this study :

- A moon viewing
- Under the linden tree
- Life of a Parisian
- Wild geese fly in the sky
- Butterflies whereabouts

From the results of analyses on these five works, both Moon Viewing and Under the linden tree seemed to follow the same trend in content of movement as her works after her study abroad. The other three works had quite different than her previous works in movement forms. Nonetheless, the three works were each performed, with magnificent expressions. Emotions and feelings, related to the contents of each work, were expressed by way of movement. This was a new trend since her study abroad and should be noted in the future.